

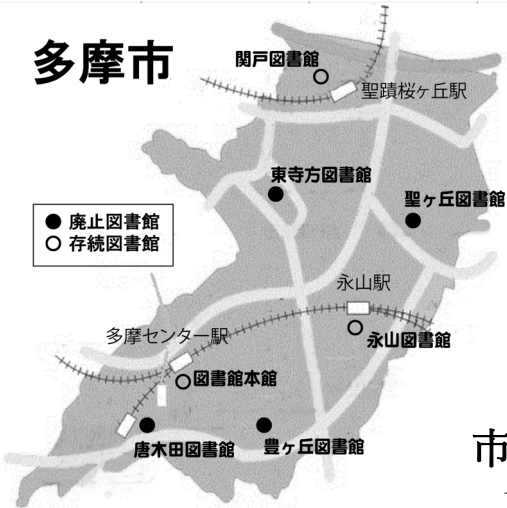
# 多摩市民による市民情報紙 No.1

## 「わたしたちの図書館をなくさないで」 ができるまで

市内のどこからでも、徒歩  
10 分以内で行けるところに  
公共図書館のあるまち。

多摩市はその理想に近いまちでした。多摩丘陵の一角で坂道が多いので、とりわけ子供たちや高齢者にとっては、重要なことです。

それは、「多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラム」(2013年11月)で、一転しました。



多摩市立図書館の将来

図書館本館	移転、存続
永山図書館	存続
関戸図書館	存続
唐木田図書館	廃止
聖ヶ丘図書館	廃止
東寺方図書館	廃止
豊ヶ丘図書館	廃止

### 市民の立ち上がりと市議会の対応

市民情報紙4頁の表にあるように、2013~2015年、廃止予定の図書館4館の地域市民が、それぞれ、存続の陳情や要請をして、市議会で、採択または趣旨採択になりました。

### その後の市の姿勢

- 市の政策情報誌「公共施設の見直しと将来像」(2015年8月、2016年3月発行)は、2013年の「行動プログラム」の繰り返しで、その以後の市民の声、議会の決議については、全く、触れていません。
- 多摩市教育委員会の「多摩市読書活動振興計画ー市民の読書活動を支える取り組みと土台となる図書館の運営についてー(原案)」(2015年12月)でも、同じく、地域図書館4館の縮小・廃止を結論としています。しかし、懇談会や、パブリックコメントで、市民からの強い反対を受けたため、現在修正中で、大幅に、変更されるとは聞いています。

### 地方自治体の公共図書館は

- 子供、高齢者、障害のある人たちを含めた市民が、広く利用する
- 自分で考え、納得し、解決するための情報を提供する

財政削減のためという理由ではなく、公共図書館の本来の目的、効用、役割など、その存在価値の面から、検討されるべきだと考えています。

食物が肉体の栄養になるように、本は精神の栄養です。知ることに対する欲求は、人間の本質的な価値観に通じます。

そして、他の人と、知識や情報を共有することで、お互いの違いを乗り越え、相互理解を深めることにつながります。

**図書館組織は、その両方を支える知の体系の骨組みを与えてくれます。**

私たちはそう信じて、市の図書館は、駅近くだけでなく、周辺地域にも、存続させることを要求して、その望みを多くの方々と共有したいという思いから、この市民情報紙を発行することにしました。